

ワンダーストーリー (YouTube) 様が、私を漫画で取り上げて頂きました。

(<https://www.youtube.com/watch?v=QkOX3iyS5hc>)

ご覧頂いた方からご質問が多いので、一部内容を更新・補完させていただきます。

私は、まもなく 80 歳になります。

COVID-19 禍で、2020 年は国内に居ましたが、通常なら年の半分は、途上国を廻っています。私の技術は途上国の水問題を解決する事に役立っています。

水に恵まれている日本人には、想像も及ばないはずですが、優秀な濾過膜は原水が濁り過ぎている現地では使い物にならず、紫外線滅菌技術も同様の環境下では使えません。

うがい水、手洗い水、飲料水が無い地域では、殆どが「電気」もありません。日本の近代的な浄水装置は使えません。

こう書けば恵まれ過ぎて、平和ボケしている、日本人は「だから、ソーラーパネルを使えばよい」と思うでしょう？

先ず一晩のうちに全部盗まれます。外務省がアフリカで実施したソーラーは、全部、今では跡形も無く盗まれています。

私も失敗を重ねたので、高価、換金出来る物は一切使いません。金属製の蛇口を全部盗られたことがあります。

JICA は性懲りも無く「井戸・ポンプ」を援助しています。ポンプも盗まれます。そもそも地下水には様々な有毒物質が含まれていることが多いのです。

私が、綺麗な水を提供すれば、初めは「味が無い」と不評です。汚い水を飲み続けると、その味に慣れるのでしょ。

私達は、現地では池や川の表面水を利用し浄化します。しかし、池や川も水浴やトイレにも利用されており、私達が日本の水道水並みに浄化しても、「排せつ物が入っているから嫌だ」と、言う人もいます。

でも、数日清潔な水に接すると、もう二度と元の汚い水は飲めなくなります。先ず、子供たちが綺麗な水に敏感です。学校にも、ペットボトルにきれいな水を入れて行きます。学校には井戸が有りますが汚いのです。友達は羨ましがり、次第に周辺に普及します。

私が重い責任を感じているのは「持続して給水しなければならぬ」ことです。一担、きれいな水を飲む様になれば、その住民達は二度と汚い水は飲めません。たとえ浄化施設が故障しても、住民の手で修理できる。部品も身近にある事が重要です。

始めの頃、ソマリアのジュバ川近くの浄水装置が、ボコハラムに銃撃され壊された写真と、住民が完全に修理して稼働している様子の写真が送られてきまし

た。タンクには再び「日の丸」が描かれていました。2ヶ月後に同じことが起きましたが、それ以降、どの浄水場も襲撃されることはありません。

それどころか、ソマリアだけでなく、幾つかの反乱軍の司令官と称する人物から「支払いはドルで払うから、自分たちにも水の供給をお願いしたい」と、メールが来ます。

NGO や、有名な国境の無い医師団、セーフザチュドレンの、高価な浄水装置が、部品は盗られ、朽ち果てているのを、アフリカ各地で見ます。部落の人に聞くと、予算が無いから維持できないと、放置した跡だそうです。私から見れば、無責任な奴は、始めから来るな！ と、言いたいのです。こうした団体とは、取引の要請があっても断ります。

浄化剤は、アフリカや、アマゾン流域でも、船賃・税金等込みで100g、1ドルで供給しています。100gで1,000ℓの水が出来ます。これを、私の弟子たちは浄水して、一日20ℓ使う家庭で月2ドル、30ℓ使う家庭は、3ドル徴収して、給料、利益、浄化剤代に充てています。一日30ℓだと月に900ℓです。原価は1,000ℓで1ドルですから、2ドルの粗利です。

難民キャンプでは、朝早く子供と森に出かけ、枯れ枝を背負って帰ります。二人分で、ソマリアでは周辺の農家が、2ドルで薪を買い、代わりにトマトや野菜、卵を仕入れてキャンプで売ります。生きる為に必死に働いている姿を、長崎原爆を見て、戦後食糧難時代にさつま芋で生きた経験の私は、「長い暗い夜も今に明ける。力になれるものなら尽くしたい」と心が動きます。

POLY-GLU 水を周辺の集落に売りに行く商売もあります。自転車に20ℓ缶6個も積みます。月に80ドルになるそうです。

浄水場を造り、現地で手に入る部材で、一日200ℓ浄水能力で、建設費は6,000ドルから15,000ドルです。差が有るのは設置場所の地形次第です。それに、原水を汲み上げるエンジンポンプ（夜は盗られないように、スタッフが持ち帰ります。）を管理するのはPOLY-GLU ボーイの一期生です。

私は、彼らを一番弟子と呼んでいます。10年前から私が教え育てた者たちです。日本にも呼んで研修させました。彼らが、私と同等の知識を持ち、時には私が驚く知恵、アイデアも出してくれます。世界に20名弱の一番弟子が居て、それぞれの国で独立（暖簾分け）させています。

国内の普及だけでなく、近隣国にも技術指導に出かけ普及に励んでいます。いくつかの国では、もう2番弟子も育てています。苦しみ藻掻いた末の「浪速商法」が、活路を見付けました。

「清い水は人間の心まで、和ませる」ことを幾度も経験して

（コラムはこちら [http://www.poly-glusb.jp/pdf/column61\\_20201110.pdf](http://www.poly-glusb.jp/pdf/column61_20201110.pdf)）  
他人を騙す、脅す、ウィルスの蔓延、紛争の多発など、世界には暗雲が垂れ込め

ていますが、人を信じられない社会で、私達の果たすべき責務が新たに増えたようです。

私は、後5年、85歳までは働き抜きます。後に続く弟子たち全員を、目標・理念・技術力共に、私以上の能力にします。その時、水だけでなく、社会も奇麗に出来るはずです。

最後に、「技術を盗まれないか？」と、よく心配されます。

ご指摘の二つの国は偽物作りに励み、今でも袋まで偽物が有ります。発酵、高分子・クロスリンクは「私の様に鬼才でなければ、たどり着けない技術です」両国が偽物造りに励んでいる間は大丈夫です。

人の技術を真似するのではなく、好奇心旺盛で、独自の研究に向かう相手が出現するようになれば脅威です。水技術は一国、一企業の物ではありません。

内心では POLY-GLU を超す技術の誕生も期待しています。

18、Nov. 2020 小田兼利